

Top message 学会誌からのお知らせ

学会誌編集委員長

勝山貴美子

日本看護管理学会誌は、看護の質向上および看護管理研究の発展を推進することを目的として、看護管理・政策ならびにその関連領域に関する論文を掲載し、議論の場を提供してまいりました。1997年の創刊以来、431本の論文を掲載し、今年度も優れた学術論文を優秀賞および奨励賞として表彰いたしました。本学会誌は、会員と学会組織をつなぐ重要な窓口であると同時に、学術団体として社会に広く情報を発信する役割を担ってきました。2025年には、認定看護管理者の更新要件である「看護実践時間」が廃止され、自己研鑽や看護管理の実践内容について、単なる学会参加の記録ではなく、自身の

役割や成果とどのようにつながったのかを具体的に記述することが求められるようになりました。看護管理実践報告は本学会誌にとっても極めて重要な位置づけにあります。看護管理者の皆様が学会抄録の作成に苦慮されている状況も見受けられます。そこで委員会では、3月8日午後16時30分に柏木公一先生をお招きし、「看護管理実践を“学会発表できる形”に変換する力を育てる」と題した企画を開催いたします。多くの皆さまに参加登録をいただきました。ありがとうございました。

論文表彰報告



Congratulations 学術論文優秀賞

東京医療保健大学医療保健学部

准教授 中山純果

このたびは、学術論文優秀賞を賜り心より感謝申し上げます。関係者の皆様、そして調査に協力くださった対象者の皆様に厚く御礼申し上げます。本論文「育児中の女性看護師のプレゼンティズムと夫婦の職場および家庭の労働時間、役割分担満足度との関連」は、女性を取り巻く社会的課題と、夜勤交代制勤務という看護職固有の課題双方への問題意識から着想を得ました。国際的にも家庭労働負荷が高いとされる30~40代の女性看護師が、健康的にキャリアを継続できる道を探ることは、将来的な看護提供体制の確保に不可欠であるとの思いが原動力となりました。研究の結果、夫婦の労働時間の組み合わせと、妻の役割分担満足度が女性看護師のプレゼンティズムに影響を及ぼすことが示唆されました。特に、夫の職場労働時間が相対的に短い状況で妻の家庭労働時間が長い場合に、業務遂行能力低下のリスクが高まるとの交互作用が示され、夫婦分担への認知的評価が、現在の業務遂行能力低下や将来的な健康障害リスクにも影響し得ると示された点が本研究の最大の意義です。実践においては、体調不良時の出勤を暗に強制しない職場風土の醸成や、家庭役割における意識的な負荷低減を図ることを促す知見です。今後は、本成果を礎に、看護職が健康を維持してキャリアを継続できるよう、政策提言に繋がる研究の蓄積を目指してまいります。



Congratulations 学術論文奨励賞

青森県立保健大学 健康科学部看護管理学領域

講師 丹野真理子

この度、日本看護管理学会論文奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。研究にご協力くださった皆様ならびに学会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本研究は、看護師長のコンピテンシーおよび「経験からいかに学ぶか」という点に焦点を当て、経験学習の実行度およびSOC（首尾一貫感覚）の尺度を用い、看護師長のコンピテンシーとの関連について分析を行いました。結果として、看護師長としての学習を積み重ねていることや、看護師長として経験を積んでいる者はコンピテンシーが高いことが明らかになりました。加えて、看護師長のコンピテンシーには経験学習における「内省的省察」が特に関連が強いことが明らかになりました。経験をすることだけではなく、経験したことを多様な視点から捉え直すことや、自分のやり方、考え方を見直すことがコンピテンシーの向上につながっていると云えます。このことから、臨床においても内省の機会を設けること、内省支援を行うことなどが有効であると考えます。

今後は、本受賞を励みに、看護師長のコンピテンシーとアウトカムとの関連や、教育としての介入などについて研究を行い、看護管理者の育成に寄与できるよう研究を続けてまいります。

Congratulations オーラル賞・ポスター賞



受賞者の皆さま おめでとうございます！！

オーラル賞

日本医科大学武蔵小杉病院 小野寺恵子

ユニバーサル外来における円滑な運営システムの構築

関西電力病院 大石勝美

看護部のホームページによる職員参画型情報発信-組織のつながりと活力を育む実践-

北里大学病院 齊藤圭子

看護師が認識しているチームの心理的安全性と看護師長のオーセンティック・リーダーシップとの関連

京都大学医学部附属病院 石川真衣

急性・重症患者看護専門看護師が行うケアシステム構築のプロセス

ポスター賞

医療法人溪仁会手稲溪仁会病院 高士恵美

リアルタイム看護記録実施率向上のための要因分析：管理者と職員アンケート調査を通じて

岐阜県立看護大学 安田みき

看護実践の質向上に向けたパートナーシップ・ナーシング・システムの充実

慶応義塾大学病院 宗廣妙子

Staffing Forecastを用いた看護業務の忙しさの可視化による部署間支援体制の検討

大阪大学医学部附属病院 佐藤浩美

病棟の繁忙度予測とそれを活用した病床管理

若手からのメッセージ

未来へのつながりを紡ぐ

東邦大学医療センター大橋病院 慢性疾患看護専門看護師

長谷川和美

第29回日本看護管理学会学術集会に参加し、看護管理の役割とは、患者の小さな願いを実現するために組織に変化を起こすことである、という視座を強く得ました。

大会長 基調講演にて田中いずみ先生が述べられた「小さな願いを叶えてくれる看護師に、患者は心を開くのではないか」という言葉は、看護の本質を端的に示すものであり、私自身の実践と深く共鳴しました。シンポジウムやインフォメーション・エクスチェンジにおいて、患者の小さな願いは 対話を通して見いだせること、そしてその対話を阻むのはしばしば組織的制約であることを学びました。

臨床の現実を目を向けると、十分な対話を実現できている看護師は決して多くなく、その背景には、時間の不足や業務優先の文化など、構造的な課題が存在します。

管理者として、看護師が対話を基盤に看護を展開できる環境を整えることは、組織の変容を伴う重要な取り組みであると実感しました。また、学術集会で学んだ認知的徒弟制を、自部署のリーダー育成に導入しました。研究成果を現場の実践へと橋渡しをしながら、看護師の育成という領域においても変化を創出する役割を担っていると感じました。今後、主任としての役割と慢性疾患看護専門看護師としての専門性を基盤に、臨床と管理をつなぐチェンジエージェントとしての役割を、一層意識していきたいと考えています。今回の学術集会は、その役割を自覚するだけでなく、組織と実践の双方に働きかけていく必要性を具体的に考える機会となりました。今後も、学会で得た知見を臨床へ確実に還元し、看護が変わり、組織が変わり、そして患者の生活がより良く変わることに挑戦し続けたいと思います。

編集後記

本号では、第29回学術集会での報告を中心に、学術論文賞を受賞された皆様の知見や若手からのメッセージを集めました。会場を包んだ看護管理の未来を拓く熱気を、紙面を通じても感じていただければ幸いです。また、会場で共有された「患者の小さな願いを叶える」という看護の本質を組織で支えるために、このニュースレターが皆様の実践と研究を繋ぐ架け橋となれるよう、これからも情報を発信してまいります。次号からは、皆様から寄せられたメッセージをご紹介します。予定です。(K・A)



Newsletter へのお問い合わせ

学術集会は最初敷居が高かったけど行ってみたら面白かった！！

学会会場最寄り駅の「全員看護管理者！！」感がすごかった(笑)

日本看護管理学会・学術集会に関するエピソードを募集します！！次号以降のNewsletterで紹介していきます



←応募はこちらから



<https://forms.gle/syaMdp1gErfvYgkv5>

一般社団法人日本看護管理学会 広報・学術情報委員会 <https://janap.jp/contact/>

<https://janap.jp>